



## 世界的に最も権威あるワインコンテストでトロフィーを獲得

No.1

IWC2026「SAKE部門」審査会・受賞発表会・5/18～22

世界最大級の酒類審査会であるIWC2026「SAKE部門」の審査会が広島県で開催され、本市の酒造会社である花酔酒造(株)の『花モ酔ウ 長期熟成純米酒 1988年醸造』が、古酒部門で広島古酒トロフィーを獲得しました。

IWC(インターナショナル・ワイン・チャレンジ)審査会は、1984年に設立された世界的に最も権威のあるワインコンテストの一つで、2007年に新たにSAKE部門が設立され、日本国内外で行われるSAKE審査会で最大かつ最も影響力のあるイベントとされています。

本審査会では、日本酒11部門に過去最高となる1738銘柄が出品され、21カ国から集まった審査員70人が、4日間にわたる審査を行い、各部門の金・銀・銅

賞と大会推奨酒が選定されました。

金賞を獲得した中で特に優れたものに「トロフィー」が贈られ、同酒造の出品酒は、最高賞にはわずかに及ばなかったものの、トロフィー受賞酒と産地が異なる次席の出品酒に授与される賞「リージョナルトロフィー(県名トロフィー/地名トロフィー)」を受賞しました。

広島古酒トロフィーを受賞した花酔酒造(株)代表取締役の谷本淳一さんは「30歳の頃に古酒の魅力を知り、自分でも造ってみたいと純米酒づくりに挑戦した。このような素晴らしい賞をいただけて感無量だ」と笑顔で話しました。



▲国内外から集まった審査員が香りや味わいなどを丁寧に審査  
写真提供：入江啓祐さん



▲受賞した古酒を持つ谷本さん

## 日本古来の製鉄法を体験

No.2

古代たたら鉄づくり体験・5/9～10

国営備北丘陵公園で「古代たたら鉄づくり体験」が開催され、約140人が参加しました。

たたら製鉄は、粘土で築いた炉で大量の木炭を燃焼させ、砂鉄を投じ、純度の高い鉄を作り出す製鉄法で、日本刀の原材料である純度の高い鉄「玉鋼」を作り出すことができます。世界でも貴重な製鉄法です。

当日は「日刀保たたら」の皆さんの指導の下、2日間にわたり体験会が行われ、参加者は炉の構築や乾燥、炉に木炭や砂鉄を入れる作業、昔ながらのふいごによる送風を体験。約10時間の操業後、最後に炉を崩して出来上がった玉鋼の原材料となる鉄の塊「鍋」が取り出されると、参加者から大きな歓声と拍手が上がりました。



▲燃え上がる炎に砂鉄を投入



▲粘土をこねて炉の基礎を形成



▲参加者から歓声が上がった鍋出しの瞬間



## さとやまの景観を守る

西城川河畔清掃・5/17

No.6

広島県のアダプト制度認定団体として活動している「西城川を世界で一番きれいな田舎に」の会が主催し、鮎の里公園周辺の西城川河畔で清掃ボランティア活動を実施しました。

当日は、市内外から27人が参加し、西城川の美しい景観を守るため、河原の草刈りやごみ拾いを行いました。

参加者たちは協力しながら作業を進め、清掃後は見通しの良くなった河畔が広がり、参加者は、「見晴らしが良くなり、訪れる人が気持ちよく過ごせる環境をつくることができた」と話しました。

地域の自然環境の保全と美化への意識を高める、意義ある活動となりました。



▲清掃活動を終え、爽やかな笑顔を見せる参加者

## 地域で楽しむ交流会

庄原市スポーツ協会東城支部グラウンドゴルフ大会・5/17

No.5

曇一つない晴天の下、東城中央運動公園で「第28回庄原市スポーツ協会東城支部グラウンドゴルフ大会」が開催され、80人の選手が参加し、3コース24ホールで熱戦を繰り広げました。

参加者たちは、日頃の練習の成果を発揮しながら、和やかな雰囲気の中にも真剣な表情でプレーを楽しんでおり、ホールインワンが決まるたびに拍手や歓声が上がリ、会場は大いに盛り上がりました。

また、今大会の結果は、今後開催される庄原市スポーツフェスティバルの選考対象となる予定で、参加者からは「地区大会でも頑張りたい」と意気込みの声も聞かれました。



▲競技に汗を流す選手たち

## 伝統を受け継ぐ

塩原の大山供養田植・5/31

No.3

東城町塩原で、国の重要無形民俗文化財に指定されている「塩原の大山供養田植」が行われました。

大山供養田植は、牛馬の安全と五穀豊穡、家内安全を願って行われる大規模な祭りです。

田植歌や太鼓に合わせて早乙女が苗を植える所作を披露する「田植踊り」、神仏両方の祈禱を行い、その棚をくぐる「供養行事」、華やかに飾られた牛が田に入り、足で泥をかく「しろかき」、早乙女が田の中に入り、太鼓に合わせて苗を植える「太鼓田植」、棚の上に祀っていた供養札を大仙社へ納める「お札納め」の5つの行事で構成されています。

現地公開は4年に1回行われており、今回は新型コ



▲列を作って棚をくぐる牛

ロナウイルス感染症拡大防止のため無観客開催となったことから、今回は8年ぶりの一般公開となりました。

当日は、田植歌や太鼓の音が響く中、早乙女たちが丁寧に苗を植え、来場者は初夏の里山に受け継がれる伝統芸能に見入っていました。

また、地域の子どもたちも参加し、地域に伝わる歴史や文化に親しむ機会となりました。



▲太鼓を打ちながら田植歌を歌う「早乙女」



▲田植歌と太鼓に合わせ、苗を植える早乙女たち

## 料理を通じて交流を深める

比和地域男性料理教室・6/2

No.8

比和自治振興センターで、「比和地域男性料理教室」が開催されました。

比和地域では毎月第1火曜日に料理教室を開催しており、現在は8人の会員が楽しく調理に取り組んでいます。

当日は、保健医療課の栄養士を講師に迎え、オムライス、サラダ、オニオンスープ、いちごミルクプリン作りに挑戦。役割分担をしながら、和気あいあいと調理を進め、オムライスなどを手際よく完成させました。また、いちごミルクプリンは想定より柔らかく仕上がったものの、「それはそれでよし」と笑顔で振り返り、次回への反省点としていました。

参加者は「みんなと料理をしながら話ができて楽しい」と語り、交流を深める楽しい時間となりました。



▲完成した料理とともに記念撮影

## 地域全体で災害に備える

下高自治振興区防災訓練・5/31

No.7

下高自治振興区自主防災組織による防災訓練が下高自治振興センターで開催され、地域住民や地元消防団など100人余りが参加しました。

大雨を想定した避難訓練では、設置した対策本部での情報収集や高齢者の避難支援、消防積載車による交通誘導が行われたほか、会場ではVRゴーグルを使った自然災害の疑似体験、庄原市・広島市の豪雨災害の記録、さらには地域のハザードマップの展示などがあり、災害への備えを改めて確認できる一日となりました。

下高自治振興区の馬船博区長は「ここ数年大きな災害はないが、今日の訓練を生かして、予期せぬ事態に備えてもらいたい」と話しました。



▲消防団から訓練の報告を聞く参加者

## もしもの時に備え火災訓練

「危険物は身近にあります！」危険物安全週間に伴う火災想定訓練・6/7

No.4

地域住民の自主防災力の向上とバイスタンダー（事故や災害現場に居合わせた人）の対応能力強化を目的に、危険物安全週間の一環として、避難訓練および危険物火災想定訓練が開催されました。

今回の訓練は、庄原消防署西城出張所、庄原市消防団西城方面隊、地域住民合同で約60人が参加しました。

当日は、天ぷら油火災の実演、消火器を使用した初期消火訓練やLive119による救急教室などの体験コーナーと、消防署、消防団による消火訓練などを行いました。

訓練に参加した住民は「自宅に消火器があっても使い方がよく知らなかったが、参加してみて、まずは落ち着いてピンを抜くことが大事だと分かった。参加して良かった」と防火への意識を高めていました。



▲地域住民による初期消火訓練



▲放水体験コーナー